

私立大学情報教育教会

経済学・経営学・数学連携の
アクティブラーニング対話集会

地域社会と連携したPBL型授業 の取り組みと課題 ～アクティブ・ラーニング・ フィールドとしての地域～

2015/12/26

青木茂樹



(駒澤大学経営学部市場戦略学科)

manzo724@gmail.com

発表の構成

1.はじめに（問題提起）

2. 個別科学の確立と

インターディシプリナリー・アプローチの登場

3. 地域創生の課題とのアカデミーのあり方

4. 異質な集団における知識創造のマネジメント

5. Open Innovation

～知の共有から共感へそして、共振・共鳴へ～

6. 今後の課題

1.はじめに（問題提起）

◎地域創生はなぜ起きない？

1)“地域”をテーマとして多様な専門家が集まることはユニーク

→ただ、ややもすると雑多な寄せ集め

cf. 1960年代にオペレーション・リサーチなどの数理的手法、
行動科学のインターディシプリナリー・アプローチ
→学問の学際的な体系化や統合化は進まなかった。

2)アカデミーの役割の限界

- ・地域は、歴史、文化、産業、交通など複合的な課題を内包
- ・各々の個別領域の研究や地域のケース発表だけでいいのか。
→地域には、多様な専門家が集まっているという価値の創出。
→異質な研究者群と民間、行政との新しい解決方法＋ICT活用

2. 個別科学の確立とインターディシプリナリー・アプローチの登場

ルネサンスによる 西洋近代科学の萌芽

- ・ 古代ギリシアの自由な思考
- ・ 古典の知識に理性的、批判的な弁証法で検証し、進歩する。

・ オックスフォード、ケンブリッジなどの大学が制度化。

e.g. 神学、法学、医学

⇒ アリストテレス（宇宙論）には逆らえないガリレオ、ニュートンの活動は大学の外へ

新しい学者の 共同体：アカデミー

ロンドン王立協会

- ・ ベーコンによる観察と実験。財政は会費。貴族・政治家も参加。

フランス王立科学アカデミー

幾何学、天文学、力学、解剖学、化学、植物学の6部門から構成され、実験科学が重視。職人の作った道具や機械的技術が大

2. 個別科学の確立とインターディシプリナリー・アプローチの登場

- ・ 1760年から1830年のイギリスの産業革命において織機、紡績機、化学工業などで目覚ましい技術革新が行われた。

- ・ ただしオックスブリッジでは相変わらず古典教育が貫かれた。

科学の専門教育は行われず、その代わり産業資本家による技能者講習所が各地に作られた（古川、1989、151頁）。

- ・ フランス：高等専門学校や科学ファキュルテがつけられた。

- ・ ドイツ：ベルリン大学やギーセン教育制度ができた。

- ・ アメリカ：実用教育としてのマサチューセッツ工科大学・コーネル大学などができた。

→科学技術の教育制度化が進む。

→19世紀には個別科学の確立と科学至上主義が進んだ。

2. 個別科学の確立とインターディシプリナリー・アプローチの登場

- ・ 第2次世界大戦
 - 心理学、社会学、人類学を援用して人間行動を研究する行動科学。
 - 経済人ではなく、人間そのものを分析することを目的として、数学、統計学、コンピューターサイエンスといった関連諸科学の導入。
 - インターディシプリナリー・アプローチ（加藤、1979、196-202頁）
- ・ 大いなる発展と学際的体系化が期待され、マーケティングではコミュニケーションや消費者行動、新製品普及など個々の領域に大きな発展を遂げた。

↓しかし、

- ・ 各専門家が自らの専門分野から諸領域を眺めるだけでその統合や矛盾した解釈を実践的解決へ繋げることとはならなかった。
- ・ 隣接的境界は埋まるどころか専門化、特殊化が増加し、その間のコミュニケーションは減少した（加藤、1979、198頁）。

3. 地域創生の課題と アカデミーのあり方

- ・消滅可能性都市の懸念、地方創生・・・
- ・年代には各都道府県に宮城大、青森県立大、山梨県立大学などの多くの公立大学が改組もしくは新規に設置された。
- ・これにより地域に異質かつ多様な専門家集団が参入し、地域研究活動はもちろん行政や自治活動のアドバイザーとしての役割も果たすこととなった。

↓一方、

- ・地域の個性と言いながらも地方政治・行政の実際の運営は、様々な官庁から出される法案にもとづいた施策と補助金が全国で展開される。
- ・本来は地域のビジョンやグラント・デザインが前面にあり、それに基づいて総合計画がつくられていくべきであろうが、そのような地方自治体は多くはない。
- ・結果として地域の個性というよりは全国に似たような施策が展開される。

3. 地域創生の課題と アカデミーのあり方

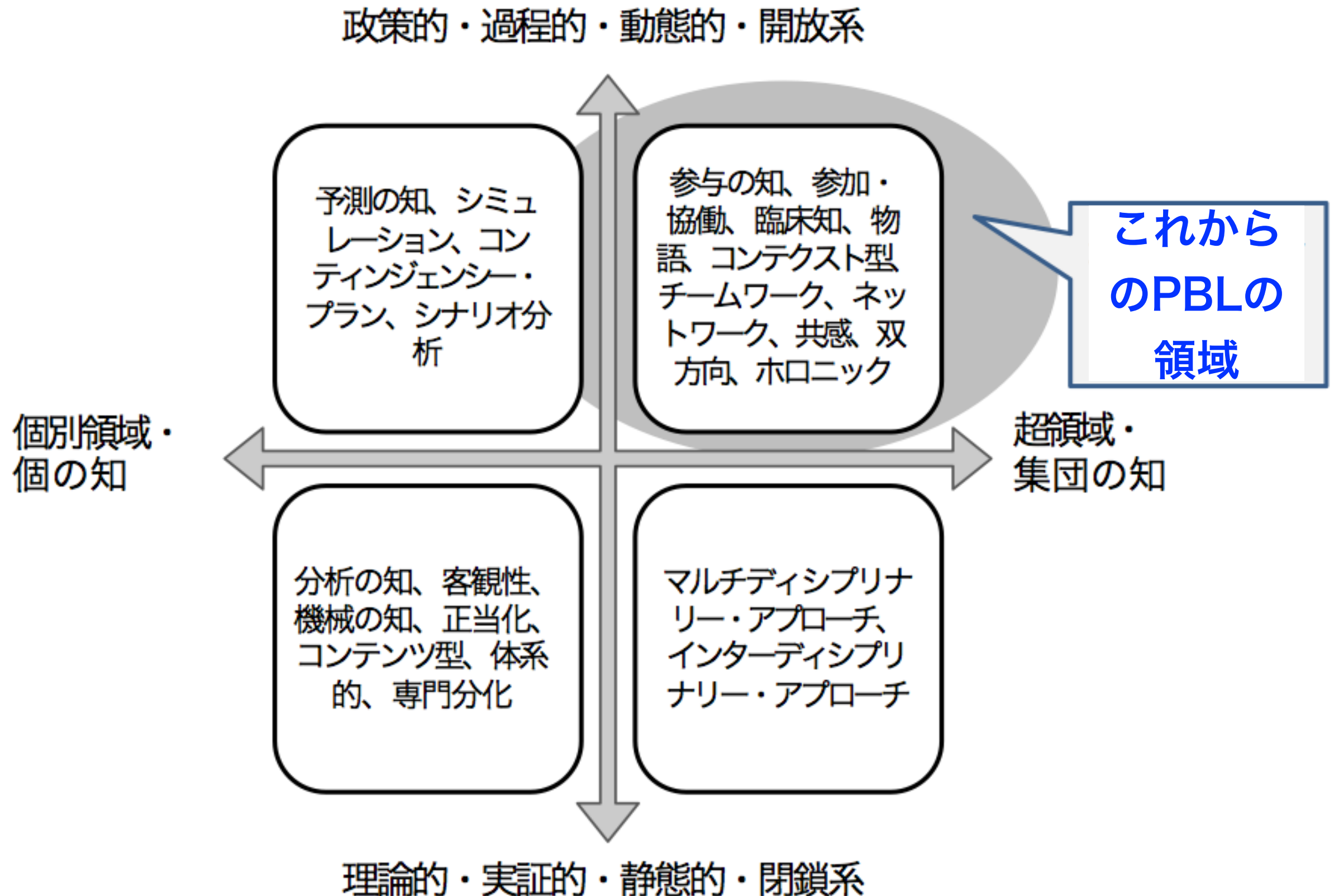
期待されるのは地域に異質性や多様性を持ちこむ研究者集団の役割

- 1) 各々の専門分野に精通し、そのネットワークを世界・全国に持つ。
- 2) 地方都市においては様々な行政活動や研究活動の中で、他の専門分野の研究者との接点が大都市に比して多い。

- ・ しかしながら、その研究活動は各々の専門領域の中でのもの。
- ・ 行政における委員会などでは学識経験者として、縦割り行政の枠組みのなかに位置づけられた役割を果たすのみである。

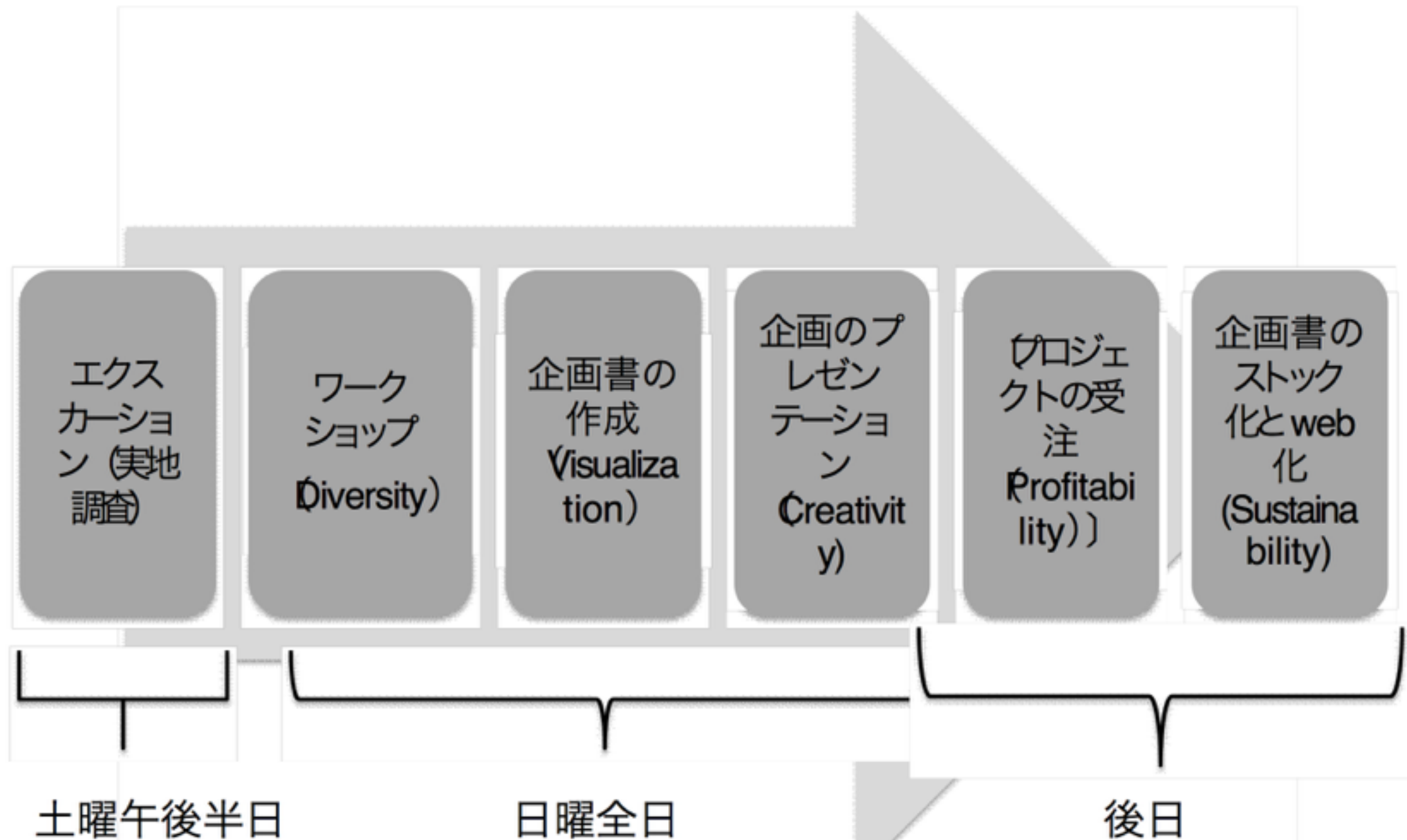
※そこで地域資源としての研究者が、アカデミズムの多様性をもちながら、地域に対してヨリ主体的な関わりはできないものか。

図表1 知のフィールドとキーワード



新たなアカデミー活動としての ”地域デザインフォーラムやまなし”

図表2 “地域デザインフォーラムやまなし”の流れ



4.異質な集団における 知識創造のマネジメント

- ・ 地域の複合的課題に対して多様で異質な研究者同士、民間、行政とどのようにコミュニケーションを図っていくか。
- ・ プロジェクト・マネジメントの難しさ。マインドマップ、クリティカル・シンキング、ファシリテーションと様々な諸概念。
- ・ 新しい公共という枠組みのなかでヨリ積極的な住民参加が求められ、この意思決定過程や合意形成をどのように管理するかというコミュニティ・デザイン、デザイン・シンキング。

→ 集団活動において個々の能力を引き出し、創発型のコミュニケーションをどのようにデザインするかというマネジメント手法

5.Open Innovation

～知の共有から共感へそして、共振・共鳴へ～

- ・ Open Innovationは学生を巻き込みやすい
- ・ TED
- ・ Hackathon
- ・ Sustainable Brands Tokyo
(2016/2/24)

サステナブル・ブランド国際会議のユニークさ

・ 米国が、産業革命、情報革命の次の機軸として、環境や社会との対応を、イノベーションや利益の源泉として捉えてきた。

・ 製品開発、マーケティング、デザイン、CSR、広報など、様々な職種の参加により、業種・業界横断的イノベーションの実践例を知り、ソリューション・ビジネスのための連携をつくることができる。



・ 従来型の講演やパネルディスカッションだけではなく、ワークショップからのプレゼン発表やメンバーで共感できるイベントなどが多彩（ダニエル・ピンク『ハイ・コンセプト』的な右脳系も多彩）。

6. 今後の課題

- ・単なるグローブワークを超えて、議論の生産性を上げられるようなファシリテート、感性を共有するデザイン、ICTの活用をだれが指導できるか。
- ・部外の組織との調整の困難さをどうするか。
- ・学生達のモチベーションの向上と維持を支援。
- ・データ分析、統計調査、財務データの指導。
「やったはずだが覚えてない？」
⇒カリキュラム体系上の課題と教員間の連携

ご静聴ありがとうございました。

ご意見・ご質問は→manzo724@gmail.com